

草の根技術協力(地域活性化特別枠)事業概要

I. 提案事業の概要	
1. 対象国名	ベトナム社会主義共和国
2. 事業名	中山間地域の少数民族農村におけるアグリツーリズムを導入した生計向上モデル事業
3. 事業の背景と必要性	<p>北西部中山間地域の少数民族が多く居住する小規模農村では農産物の収入が低く、村経済が低迷している。そのために都市と農村の経済格差が広がると共に、若者の都市の流動が起きている。この地域の安定を図るためには経済を活性化することが必須であることから、農産物の付加価値化を図るとともに、農村活動の多様化を目的としてアグリツーリズムを導入し、村の経済の活性化を目指すこととした。</p> <p>農産物高付加価値の手法として、本事業では簡易施設栽培による無農薬栽培の高付加価値生産物の販売と出荷を行う。また、消費拡大を目的として、村に訪れる観光客をターゲットとし、販路を拡大させる。さらに村内に残っている自然資源を活用した特産品作りや観光目的の活動を取り入れて村経済の活性化を図る。農業に関係する体験型観光や村の滞在型観光(民泊)を取り入れ、観光客の増加とともに高付加価値農産物の販売拡大により、村おこしが可能となり、経済活性化と生計向上が図れる。</p>
4. プロジェクト目標	農民による農業と観光を融合させたアグリツーリズム事業が農村開発の生計向上のモデルとなる。
5. 対象地域	ソンラ省ソンラ市チェンアン郡ボ村
6. 受益者層	(直接受益者) ・ソンラ市のボ村のうちタイ族の20世帯を農村開発グループ (間接受益者) ・ソンラ市のボ村264世帯1,195人
7. 生み出すべきアウトプット及び活動	<p><アウトプット></p> <p>成果1: アグリツーリズム開発を実践するために必要な村の組織化が図られ人材が育つ。</p> <p>2. アグリツーリズムを基にした付加価値のある農業生産物や特産品が生産される。</p> <p>3. 村の中に農民による滞在型、体験型観光事業等を取り入れた観光事業を開発する。</p> <p>4. アグリツーリズムを6次産業化する。</p> <p><活動></p> <p>1-1. 農民がアグリツーリズム活動の組織化(委員会、グループ)を図る。</p> <p>1-2. 農業と観光事業の組み合わせに係る技術、知識、運営能力等の向上のためのワークショップと国内研修を農民、関係者に実施する。</p> <p>1-3. 先進国のアグリツーリズムの成功例を習得するために農民、担当官に対し本邦研修を行う。</p> <p>1-4. 農民組織が持続的発展としての事業計画を策定する。</p> <p>2-1. 安心安全野菜・果物を生産する。</p> <p>2-2. 観光農園を設立する。</p> <p>2-3. 農民組織がニーズ調査方法を学んで、村に適した特産品を開発する。</p> <p>2-4. 自然資源を活用した村の観光目的の事業を開発する。</p> <p>3-1. 滞在型観光として民泊のサービスと施設の改善を行う。</p> <p>3-2. 体験型観光の取り組みを実践する。</p> <p>3-3. 農民グループと来村者との交流会が行われる。</p> <p>4-1. 農水産物の加工品開発を行なう。</p> <p>4-2. 宿泊施設の活動を通して農水産物の活用、販路の開拓を行う。</p> <p>4-3. 村のアグリツーリズム活動の広報とハノイ等の旅行者との連携体制を作る。</p> <p>4-4. ベースライン調査を行い、ガイドラインを基にしたガイドブックを作成する。</p>
8. 実施期間	(西暦)2021年5月10日~2023年10月31日(3年0ヵ月)※想定
9. 事業費概算額	55,938千円
10. 事業の実施体制	日本側: 茨城県笠間市、NPO法人国際農民参加型技術ネットワーク(IFPaT) ベトナム側: ソンラ省農業農村開発局、ソンラ省文化・スポーツ・観光局、タイバック大学
II. 実施団体の概要	
1. 団体名	提案団体: 茨城県笠間市 指定団体: IFPaT
2. 活動内容	笠間市: 地方自治体行政 IFPaT: 海外技術協力を国内外で実施している特定非営利活動法人